

スイス民間防衛
(Zivilverteidigungsbuch)

戦争
(Krieg)
pp.208-223

1969

ドイツ語版からの翻訳

民間 防衛

戦争

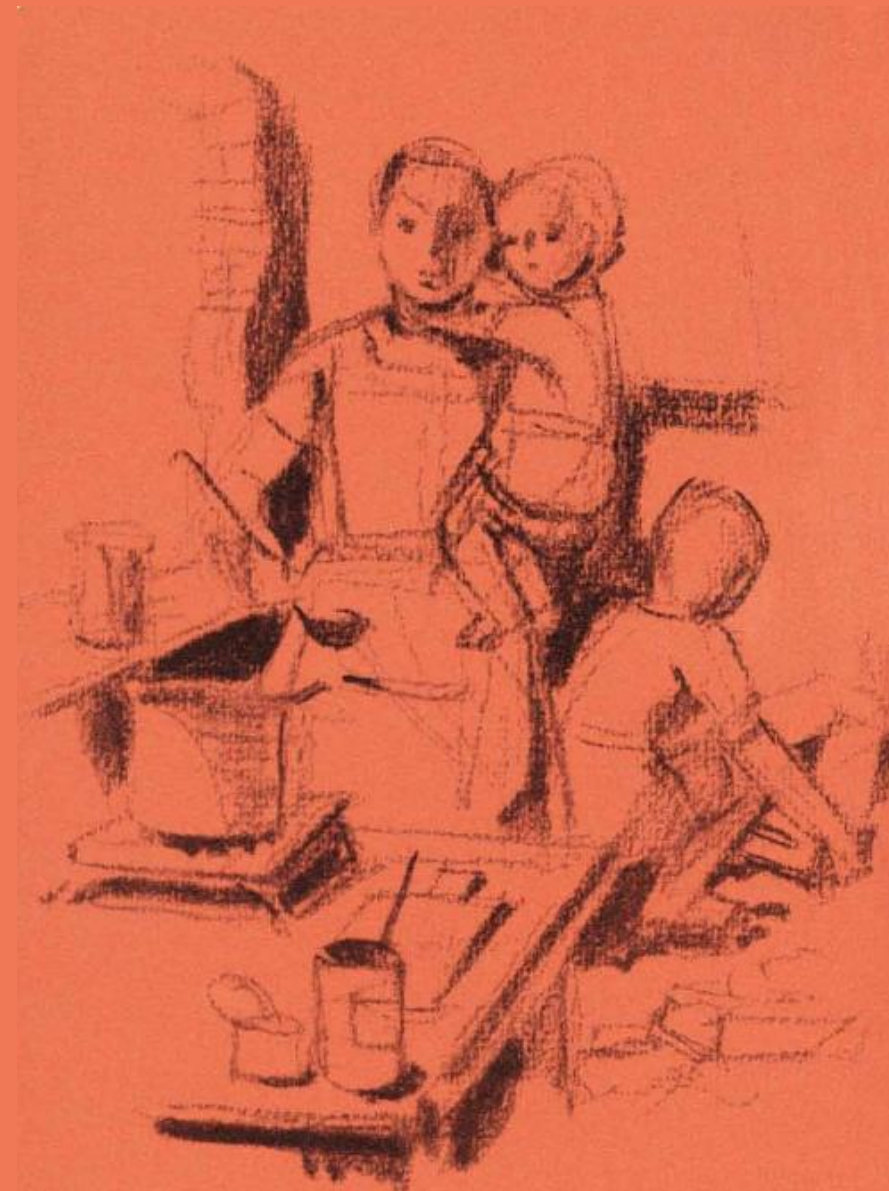
トルニオ: パダニアではパニックと混乱が起きている。政府は今朝辞任し、緑シャツのリーダーであるトラストロ将軍が権力を掌握した。

MIPA（中央条約機構）本部は次のように報告した：
クリンゲンブルクと他の 6 つのシルヴァンの町は 04:00 に通常兵器による大規模な攻撃を受け、タラスカ機械化部隊は空挺作戦の支援のもと国境の河を越えた。

トルニオ: 緑シャツと並んで、タラスカ正規軍もパダニア戦域に現れた。

タラスカ機械化部隊は驚くべきことにスイス国境まで進出しており、これに対して中央条約機構の抵抗が強まり、スイスの状況は非常に危機的になっている。

砲撃される街
民間防衛の活動
戦いの準備は整った
規律
戒厳令
立ち向かう意志
敵による欺瞞
戦いの街
命を賭けた戦い



戦争が始まった。戦争はすべての幻想を打ち砕く。最初の瞬間から、戦争は全力で想像を絶する残忍さで我々を打ちのめす。失ったものは取り戻せない。

今こそ言おう：

鋼の精神を持て！頑張れ！

生き抜け！

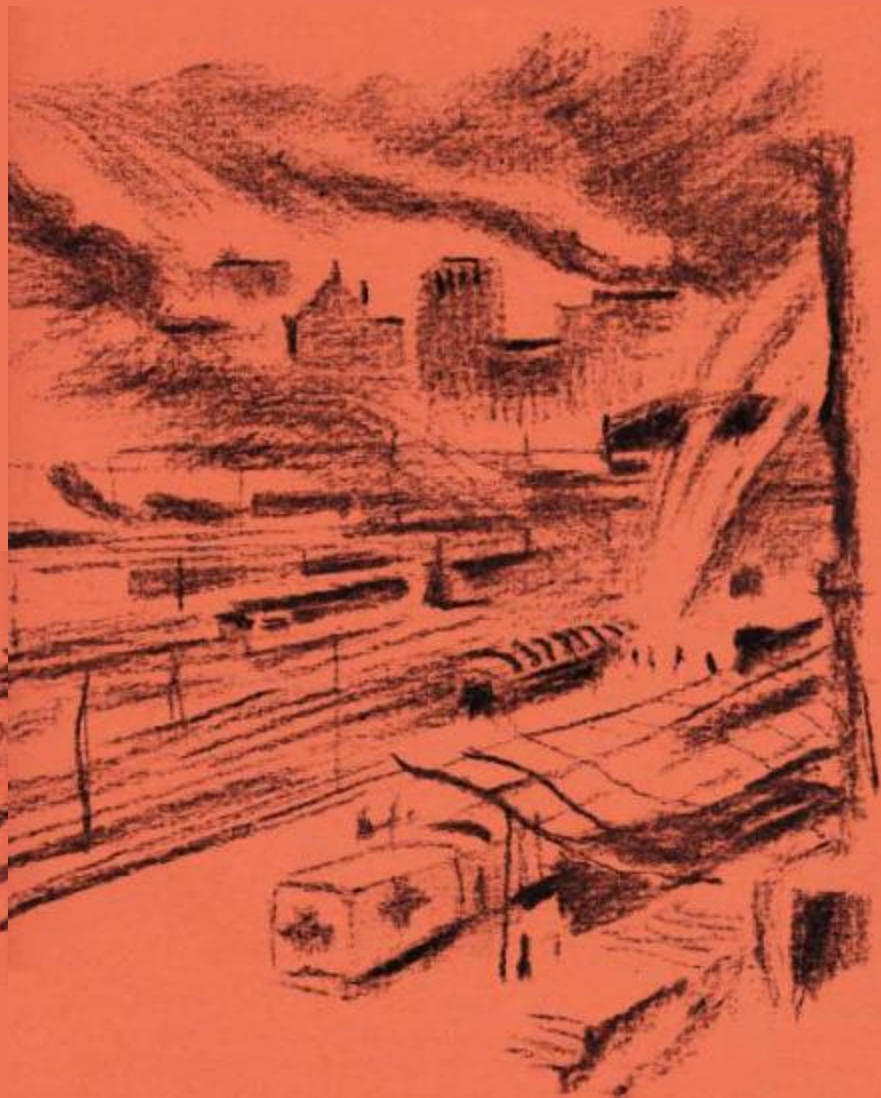
わが軍は、強力な攻撃者にも耐えられるほど強力である。しかし、兵士が戦い、持ちこたえることができるのは、国民全体が持ちこたえる場合だけである。民間人の行動は、軍がその任務を遂行できるかどうかを左右する。

襲撃

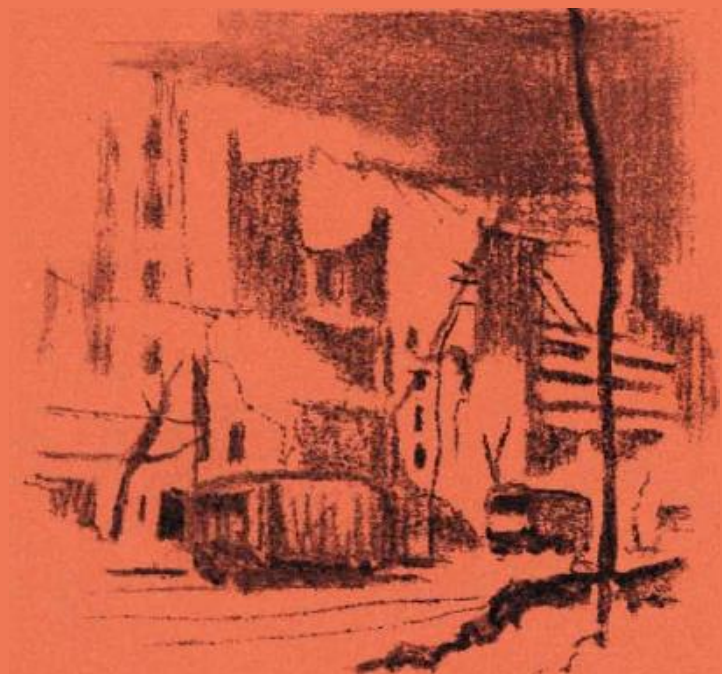
06:00以降、市は推定距離80～100kmからロケット弾による砲撃を受けて、砲撃は06:22まで続いた。約80発が着弾した。核弾頭が使用されなかったのは、敵が都市に侵入する自軍を放射能で危険にさらしたくないためである。モースの工業地区、橋周辺の市内中心部、鉄道施設は完全に破壊された。民間人の犠牲者はまだ判明していない。最初の報告によれば、住民は時間通りにシェルターに避難できたので、犠牲は多くないはずである。電力が遮断されている。都市部では、ガス管と水道管の破裂が多数報告されている。アウストラッセとミュールストラッセの間の集合住宅街区が火災を起こしている。

砲撃が終了後、地域防衛隊員、企業警備隊、地域民間防衛組織が配備され、当面の間、火災の延焼を防ぐことができた。07:15、我々の街に配備された防空大隊が効果的な支援を展開し、最も被害の大きかった地域で災害対策と救助活動を開始する。

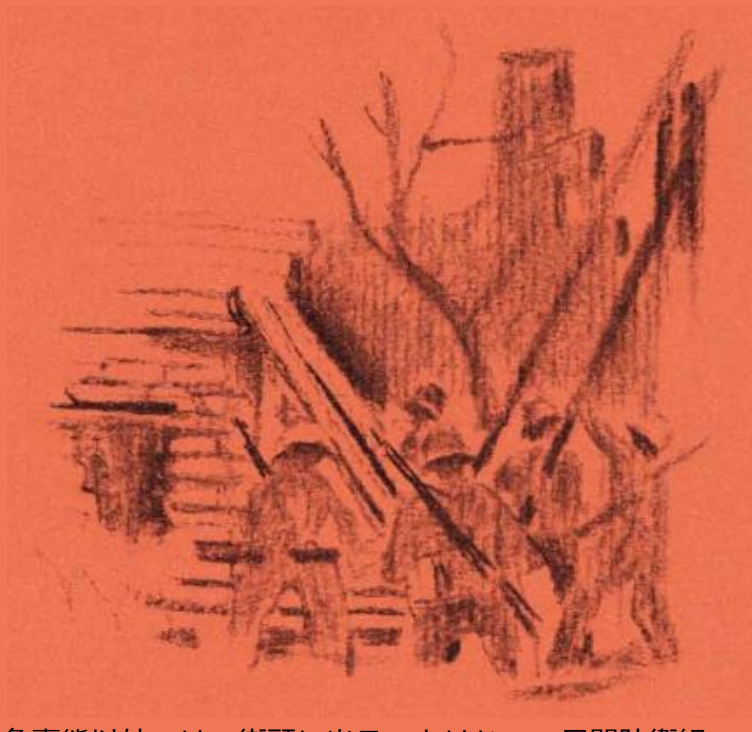
生産に不可欠なオペレーションの復旧に着手する。残存する印刷機を使って、一般市民向けの情報リーフレットを印刷も可能である。



戦いの準備は整った



21:25 暗くなってから、スイス軍の援軍が街とその周辺に到着する。橋周辺の街の中心部が拠点として構築される。工兵隊は戦闘部隊と協力して、破壊された都市の瓦礫の山に兵器配備場所とシェルターを構築する。地下室がまだ無傷の場合、それらは強化され、防護された入口が作成される。何千もの土嚢が積み上げられ、杭が打ち込まれ、入口に有刺鉄線が張られ、野原では歩兵部隊が地雷原を展開する。電信兵は何十キロメートルにもわたる電線を引き、指揮所、兵器配備場所、監視所を接続する。夜通し、作業が続く。朝になると、街から人通りが途絶えている。姿を見せないことが、現代戦での至上命令である。



緊急事態以外では、街頭に出ることはない。民間防衛組織の長は基地司令官の指揮下に入る。軍によって建設された都市の四分の一から民間人は撤収する。民間防衛組織の任務についていない民間人は、一晩のうちにフェルト通り、アルペン通り、シュルハウス通り、カナルガッセの間の区域に移動する。地域の防空組織もここを撤退する。民間防衛組織の長は、防空司令官と協力して状況の変化によって必要になった新しい決定を下す。民間防衛組織は、市の食料備蓄全体を引き継いだ戦争経済局と連携して、共同キッチンで民間人に食事を供与する。スイス連邦大統領は連邦参議会の戦時拠点で簡潔な演説を行い、スイスが降伏したという報道はすべてプロパガンダの偽情報とみなすよう強調した。

規律

戦闘地域の民間人には厳格な規律が適用される。現代の戦争では、どの街も一夜にして戦闘地帯になる可能性がある。ここでは、軍司令官が民間人の行動に命令を下す。市長は、与えられた命令を実行する責任がある。我々の状況では、これらは次のとおり：

都市は数時間で戦闘地帯になる可能性がある。

街は軍事的に防衛される。

一般的な軍事状況の理由から、住民の避難は不可能である。

指示：

1. 民間人は防護施設を離れない。誰を見せない。
2. 軍事部門へのすべてのアクセスは禁止。駐屯地の指示には何があっても従う。歩哨と街頭警察官は1回の警告後に武器を使用する。標識のある道路は軍事用に確保される。



戒厳令



指示：

戒厳令の条項は厳守しなければなりません。

1. 戦闘は軍隊の唯一の任務である。彼らは制服と記章で認識でき、責任ある指揮官の命令下にある。我々のスイス軍は国民軍である。したがって、兵役に適した人は全員、軍事訓練を受けてから、特定の軍階級に所属する。
2. 民間人および民間防衛要員は、いかなる戦闘行為をしてはならない。そのような行動は軍事的に役に立たず、敵からの報復につながる。
3. 軍事組織や民間防衛死す受に配属されていないが、都市の防衛に貢献したい人は、武器、リュックサック、毛布、食料を持って、翌晩に最寄りの軍司令部に出向く。制服あるいは連邦腕章を貸与される

4. 民間人は、捕らえた敵に対し、いかなる形態の身体的暴力、侮辱、その他の不当行為をしてはならない。負傷した敵や病気の敵には援助が与えられる。私服または偽の制服を着た敵のスパイや妨害工作員、および自国の裏切り者は、戒厳令に基づいて軍事法廷で裁判にかけられるように、軍当局に引き渡すか、通報しなければならない。
5. 軍事施設、橋梁、道路、鉄道施設の破壊、および産業施設や商品在庫の廃棄は、軍隊の任務であり、軍の命令によってのみ行われる。自分の所有物であっても、民間人がそのような行為をすれば違法行為となる。
6. すべてのスイス国民は、軍事組織に配属されているか否かにかかわらず、生命や身体や名誉が危険にさらされている場合、自衛する権利を有する。この権利を否定することは誰にもできない。

立ち向かう



作業は翌晩に再開される。部隊は拠点を拡大し続けている。それは地面に深く入り込み、どんどん深くなります。

まだ軍事や民間防衛の任務にない男性たちは、最寄りの軍事指揮所に出向いた。彼らは地雷、有刺鉄線、支柱や丸太を設置する。工兵隊の建設機械とコンプレッサーは、一晩中ノンストップで稼働する。

軍事や民間防衛の任務にない女性たちは志願した。彼女らは民間防衛組織の応急処置部門と、住む家を失った人々を支援する共同キッチンで働いている。民間人は軍人と肩を並べて、立ち向かおうとしている。

明晰な頭脳

01:30 ロケット砲撃再開。全員が姿を隠す。軍人と民間人はシェルターに入っている。ラジオは国営放送局の周波数に合わせる。干渉がある場合や、聞いたことのない声が聞こえる場合は、聞いたことがある声が聞こえるまで、これらの波長のすぐ近くを探す。着弾が続く。隈なく探した。03:00 砲撃が止まる。ラジオが突然鳴る。国営ラジオ局の音楽が流れる。すると「注意! 注意! スイス軍司令部は、民間人避難のために敵との4時間の停戦に合意した。都市住民は、アルプスの端に向かう適切な道路でただちに避難すること。」

一人は驚く。ラジオの声がいつもと少し違う? それなら、敵の欺瞞である。我が軍の知れ部の命令はこれとは異なり、明確である。民間人が外国の要求に従った場合、決定的な瞬間に言葉では言い表せないほどの混乱が生じるだろう。それは我が軍の動きを妨げ、橋や峡谷は逃げる民間人で詰まり、敵が接近しても、爆破できなくなり、敵に対して砲撃できなくなる。また、前進する敵の軍列が、逃げる住民人口と混ざり合うため、敵の戦車を攻撃したい場合、我が飛行機は爆弾を自国の女性や子供に直接投下せざるをえなくなる。

しばらくして、いつもの話しての声が国営放送の周波数に近い波長で再び聞こえた。「敵は自分たちのために国営放送の周波数を使っている。聞きなれた声の放送のみを信じること」

命を賭けた戦い



あちこちで、シェルターや塹壕が埋もれている。民間防衛隊員と防空大隊兵士が生き埋めになった人々を救うべく、地下室から地下室へと壁に穴を開けて漸進する。防空隊の撤退は論外である。産業地区では、防空2個中隊が救援活動を中止し、侵略する敵に対して野戦軍とともに防衛のために戦う。

今朝、街をめぐる戦いが勃発する。放送が途切れる。シェルターにいる一般市民は、何が起きているのかわからない。砲弾が落ちる音と機関銃の音だけが聞こえる。

医療従事者は負傷者に包帯を巻き、医師はその場で輸血を行う...

多くの人々は、どれだけの間、地下室にこもっているのか、もはやわからなくなっている。そのような人々は、すべては、1つの確固たる意志、すなわち、忍耐し、生き残ることに、奮い立たせている。

我々は、このような戦争が決して起こらないことを望んでいる。そのような戦争では、影響を受けた地域には言い知れない苦痛をもたらし、大規模な破壊が残される。それでは侵略者は利益を得られないだろう。侵略者には、自由な国民を支配する別の方法を選択する、正当な理由がある。